

# はぎのだい

学校だより臨時号



令和元9月 27日（金）

津幡町立萩野台小学校 校長 宗廣 進一

## 学校評価の結果から

日頃より、本校の教育活動にご理解とご協力いただきありがとうございます。

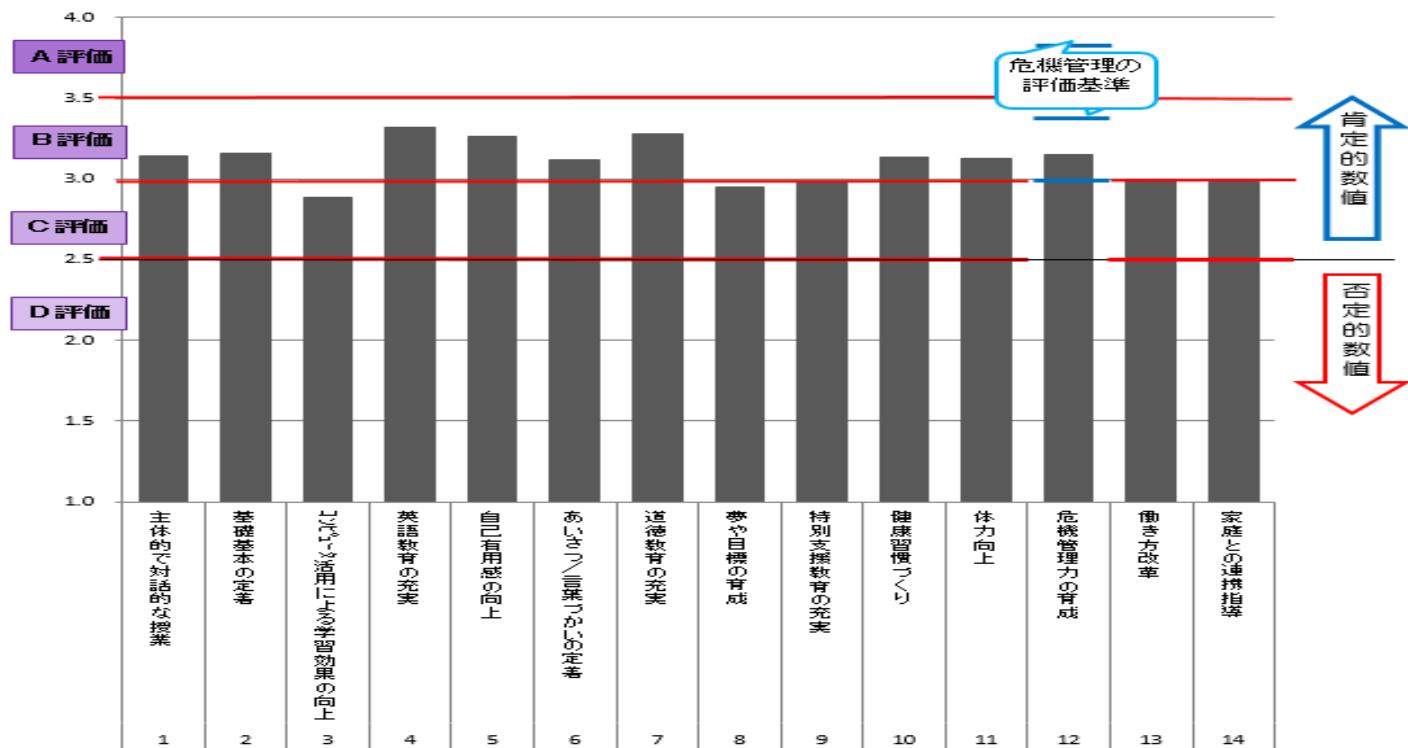
さて学校評価については、保護者の皆様には7月にアンケートにご協力をいただき、ありがとうございます。それも含めた前期の結果を取りまとめましたのでお知らせいたします。この評価は、私たち教職員の教育活動を振り返り、今後更なる改善に向けて取り組むことを大きなねらいとしております。全職員で共通理解のうえ、9月から改善に向けて取り組んでいます。今後とも、保護者の皆様のご理解・ご協力をお願いいたします。

### ★ 学校評価 中間評価結果より

(達成率)			
A : 平均値 3.5 以上	B : 平均値 3.0 以上	C : 平均値 2.5 以上	D : 平均値 2.5 未満

	重点目標	達成率	判定	9月からの方針・改善策
学習指導力と学力の向上	(1) 主体的で対話的に学ぶ児童の育成	教職員 3.0 児童 3.2	3.1 B	・「めざす児童の姿」や「関わり合い」「深めること」について、さらに具体的にして取り組む。 <u>(9月中)</u>
	(2) 基礎基本の定着	教職員 3.4 児童 3.1 保護者 3.2	3.2 B	・家庭学習について保護者との連携を充実させたり、個別指導を充実させたりする。 <u>(9月～)</u> ・朝や昼時間の学習タイムでの個別学習を充実させる。 <u>(9月～)</u>
	(3) ICT 機器の活用(町内共通)	教職員 2.9	2.9 C	・効果的な使い方について情報交換し、強化週間を設ける。 <u>(11月)</u> ・全教室でデジタル教科書を見られるようにする。 <u>(11月中)</u>
	(4) 英語教育の充実(町共通)	教職員 3.3 児童 3.3	3.3 B	・2学期中に教員向け研修を実施し、授業をより楽しく達成感のあるものになるようにする。 <u>(10月中)</u>
生徒指導の充実と豊かな心の育成	(5) 自己有用感の育成	教職員 3.2 児童 3.3 保護者 3.3	3.3 B	・行事に向けた個々の目標を全職員が理解し、目標達成に向けて支援し、自己有用感が高める <u>(機会をとらえて・毎日)</u> ・全児童への関わりを強め、ほめや励ましを行う。
	(6) 社会的生活習慣の定着	教職員 3.0 児童 3.3 保護者 3.1	3.1 B	・「言葉遣い」「人間関係作り」を生活目標に取り上げ、自己評価に加え教師の客観的な評価も入れる。時には児童と考える時間を持つ。
	(7) 道徳教育の充実	教職員 3.5 児童 3.4 保護者 3.2	3.3 B	・引き続き、道徳だよりや学習のワークシートなどで、保護者との連携を充実させる。 <u>(12月)</u> ・重点目標が学校の教育活動全体で行えるように提案を行う。 <u>(9月)</u>
	(8) 夢や目標を持つ児童の育成	教職員 2.6 児童 3.4 保護者 2.7	2.9 C	・現取組をキャリア教育の視点で捉え直す研修会を開催する <u>(8月+10月)</u> ・機会を捉え「目標をもち、努力し、ふり返る」活動を続ける。 ・保護者アンケートの文言を改善する。 <u>(12月まで)</u>
	(9) 特別支援教育の充実	教職員 2.9 児童…3.1 保護者…3.0	3.0 B	・情報交流を通して全教職員で個々の児童を深く理解し、必要に応じて対応策を協議し、組織的に共通実践を行う。

体力向上と危機管理	(10) 健康的な生活習慣の定着	教職員 3.1 児童 3.0 保護者 3.3	3.1 <b>B</b>	・指導をさらに充実させ、児童の意識と実践力を向上させる。また、課題がみられる児童には個別指導を行う。(9月) ・たよりや個別連絡を通じて保護者と協力する。(9月) ・すこやか集会等を通じて児童、保護者に啓発していく。(11月)
	(11) 体力向上	教職員 2.8 児童 3.5 保護者 3.2	3.1 <b>B</b>	・準備運動で縄跳びやラダー運動などに取り組む。(運動会後) ・9月～10月にかけて「40m」、12月～1月にかけて「8の字」を全校で取り組む。
	(12) 学校の危機管理能力の向上	教職員 3.2	3.2 <b>C</b>	・危険対応力を高めるため、予告なしの訓練を実施する。(10月) ・危険ありきの思想で保護者や関係施設と情報交流し報連相体制を高める。(常日頃から)
業務改善	(13) 教職員の働き方改革と業務改善	教職員 3.0	3.0 <b>B</b>	・成果に応じて行事や取組を精選する。(12月) ・帰宅前の3分間整理整頓に取り組む。(9月) ・サーバ内のデータと公的帳簿を整理整頓する。(個人で持たない) ・水曜日のノー残業デーや月末の定時退校日を守る。 ・業務の平準化等に取り組む。(10月)
連携	(14) 効果的な指導のための家庭との連携	教職員 3.0 児童 3.1 保護者 2.9	3.0 <b>B</b>	・友達の自学ノートから個に適した学習法を学ばせる。(9月) ・効果的な家庭学習法について保護者に伝え協力を依頼する。(9月末) ・ぐんぐんタイムを実施する。(10月) ・学校と保護者の思いの交流を進める。(PTA役員会・おやじの会)



児童・保護者・教職員の各アンケートや学力調査等を数値化し、項目ごとに総合的に判定しました。その結果を検証・分析し、改善策を立て、9月から全ての学級で取組を進めています。

14項目中、AやDの判定はありませんでした。B判定は11項目あり、C判定は、

(3)ICT機器等の効果的な活用 (8)夢や目標を持つ児童の育成 (12)学校の危機管理能力の向上の3項目でした。(12)学校の危機管理能力の向上の判定基準は命に関わる内容であり、他の項目より高い基準を設定しているため、C判定となっております。今後、評価が上がるよう、取組を進め、2月の終わり頃にその結果をお知らせします。

裏面もご覧ください

# 年度当初（4月）の学力調査の結果を受けて

今年度も4月に、全国の6年生を対象にした全国学力・学習状況調査（社会・理科）と4年生と6年生を対象にした石川県基礎学力調査（国語・算数）を行いました。また、町独自に、5年生を対象とした学力調査（国語・算数・理科）も行いました。なお、調査により測定できるのは学力の一部ですが、調査の意義を踏まえ、児童の学力や生活力の向上に向けた改善に役立てていくよう努力していきます。

本校児童の調査結果は、以下のとおりです。

学年	国語	算数	理科	社会
4年	県平均より★	県平均より★		
5年	町平均より☆	町平均より☆	町平均より○	
6年	県平均より▲ 町平均より●	県平均より● 町平均より○	県平均より▲ 町平均より●	県平均より● 町平均より○

☆+11以上 ◎+6~10 ○+0~5 ●-0~5 ▲-6~10 ★-11以下

- ・6年生は、算数・社会の問題は県平均より2~3ポイント下回りました。国語・理科においては、5ポイント以上下回っています。
- ・5年生は国語・算数・理科の教科が県及び町の平均を大きく上回っています。
- ・4年生は県の平均を11ポイント以上下回りました。

## ★学力調査の分析(教科別)

◎は優れていたところ △は弱かったところ

教科	分析結果
国語	<p>◎6年-「書くこと」の内容では、図表やグラフを用いた目的を捉え、図表やグラフを用いて相手に分かり易く伝えるための記述の工夫などは理解している。</p> <p>◎6年-「読むこと」の内容では、全体的に正答率が高い。授業中は苦手意識が強い説明的文章も読めている。</p> <p>◎5年-「書くこと」の内容では作文を記述することは得意である。</p> <p>◎5年-「言語」の内容では、第4学年配当の漢字を書くことは得意である。</p> <p>◎4年-作文に対する意識が高い。文字数の条件を守り書くことができる。</p> <p>△4・5・6年-主語と述語の整合性、修飾・被修飾語の関係等、言葉の使い方が弱い。</p>
算数	<p>◎4年-3けた×1けたの筆算や図形の技能がよい。</p> <p>◎5年-あまりのあるわり算や小数の乗除などの計算方法はしっかりと理解し、処理能力も比較的高い。</p> <p>◎6年-グラフの読み取りはしっかりとできていた。計算ミスが少なく、計算処理の方法を正しく理解しており、計算しやすい式に直す力をもっている。</p> <p>△4・5・6年-数量関係の領域では、量感を問われる問題や単位換算に課題がある。</p>

社会	<p>◎6年・森林の働き、防災に関する問題は正答率が高い。</p> <p>◎6年・工業の単元で自動車工場についての設問は正答率が高い</p> <p>△4・5・6年・単元に関係なく、グラフをもとに説明する問題では、グラフからわかるなどを書かずに結論だけを書いている。また、グラフが読めても尋ねていることに適切な答え方ができていない。</p>
理科	<p>◎5年・1年間の植物の成長や物のあたたまり方(金属)などの理解はよい。また、気温の変わり方の折れ線グラフからその後の天気を推測したり、金属のあたたまり方をもとに、ゼムクリップの倒れる順番を推測したりすることができる。</p> <p>◎6年・単元に関係なく知識・理解は概ね正答率が高い。</p> <p>△4・5・6年・「エネルギー」に関する分野では、電気、電流についての問題に課題が見られる。「乾電池のつなぎ方」「直列・並列つなぎ」について、用語を正しく使って説明することが苦手である。</p>

## 〔今後の改善の取組〕

### (1) 授業の中での取り組み

- 国語
- ・言葉の勉強では、教えることをきちんと教え、できるだけ多くの文に触れさせる。
  - ・文作りをするなど作文にも結び付けるようにする。
  - ・物語文や説明文の中で、主語・述語の整合性、修飾・被修飾の関係について、意図的に取り上げる。主語や述語、修飾語を尋ねたり、児童の作文での誤りを見逃さない。
  - ・家庭学習やパワーアップタイム を活用して、言葉の力のスキルアップを図る。
  - ・算数・立式の理由や自分の考えを書いたり説明したりする活動を多く取り入れる。
  - ・日頃から何を問われているのかを考えさせ、明確な考え方を指導する。
- 算数
- ・日常生活と関連付けた題材や問題を取り上げたり追及活動の中で、操作活動、体験活動を取り入れて課題を解決したりして、実感を伴った理解を大切にしながら学習を繰り返す。
  - ・単位換算を扱う授業では、換算の方法をしっかり身に付けるだけでなく、児童が説明できるようにする。
- 社会
- ・ねらいが達成でき、追求意欲が高まる学習課題を設定する。
  - ・単元を通し、学習意欲が継続する学習展開を工夫する。
  - ・追求活動の中でひとりひとりに根拠や理由を書かせる等、因果関係を明らかにさせながら課題解決に導く。
  - ・複数の資料から読み取った情報を関連付けて、適切に表現させる場を設定する。
- 理科
- ・目的意識をもった観察・実験となるように見通しをもたせる。そのため、予想を充実させる。また、観察・実験の方法を正しく指導し見取る。
  - ・理科的用語（キーワード）を入れてまとめや振り返りを書かせ、課題に応じた記述ができるように指導する。
  - ・実験・観察において結果を表やグラフに整理し、そこからわかるなどをまとめ、課題について自分の考えを表現する活動を充実させる。

### (2) 授業以外での取り組み

- ・朝学習、パワーアップタイム、ぐんぐん教室、家庭学習で漢字・語彙・計算力をつける。
- ・良い自学を紹介し、互いのノートを見合ったりして参考にさせる。
- ・家庭学習について、翌日の帯タイムで直し、解説を行ったり、良い学習をほめたりして、家庭学習の価値づけをする。
- ・家庭と連携して家庭学習強化週間を設定し、「学年×10分」の学習時間の定着及び内容の充実を図る。

萩野台小学校では、上記の結果を踏まえ職員一丸となって努力していきます。学校と家庭が連携して、今後とも児童の成長のためにがんばっていきましょう。ご意見は何なりと学校（担任または管理職）までお寄せください。